



第 72 号

平成28年3月25日発行  
発行  
広島県立障害者  
リハビリテーションセンター  
若 草 園  
若 草 療 育 園  
東広島市西条町田口295-3  
TEL (082) 425-1455  
印刷所  
ワークホーム 聖 恵  
竹原市忠海中町三丁目16番1号  
TEL (0846) 26-1002

## 重症心身障害看護師認定を取得して

療育園看護師 山 岡 美和子

私は、平成16年10月から療育園スタッフとして勤務させていただいています。初めは惑いを強く感じたことを今でも覚えています。

関での研修や実習を行い、論文やレポートの提出をもって審査をうけ取得できる資格です。また5年ごとの更新審査があります。

少しずつ利用者さんのことが分かり始めると疑問や不安を感じました。どんなことを求めているのだろうか、私のしていることは正しいのだろうかと思う気持ちが強くなっていました。まだまだ、重心について勉強不足を痛感していた時に日本重症心身障害福祉協会認定の重症心身障害看護師認定という資格を知りました。上司のすすめもあり、この資格に挑戦することにしました。決められた教育機

関での研修や実習を行い、論文やレポートの提出をもって審査をうけ取得できる資格です。また5年ごとの更新審査があります。

私は、この資格を中四国地区研修機関での一期生として、平成26年全国119号の認定をいただきました。ではどのような役割を求められているかですが、制度規則には

①重症心身障害児者及び家族に対し、熟練した看護技術及び知識を用いて専門性・個別性の高い看護を実践する。

②看護実践を通して、看護・療育スタッフに対し教育的支援を行う。

③重症心身障害児者を取り巻く今目的課題に積極的に取り組む。とあります。

私は、現在日々の勤務の中でスタッフにアドバイスをしながら看護を行っています。また、自分の学んだことが利用者の皆さんにより良い生活、健康管理につながるように努めています。看護研究などを一緒に行的教育的支援を行っています。しかし、資格をいただいているから本当に自分は、認定としての役割が果たしているのだろうかかと悩むことがあります。

時々ご家族の皆さんとお話することがあります。日常会話で終わることもありますが、利用者の方々の健康状態への不安を話されることもあります。また重篤化される方もいらっしゃる中で決断を

迫られる場面もあります。そのような場面に遭遇することが今年度は多くあったようにも感じました。私の中でそのことがとても重要に感じ、利用者の皆さんだけでなく、ご家族の皆さんにも寄り添うことができると考えました。もちろん担当看護師や担当療育スタッフもいます。そのスタッフも寄り添う努力をした上で、ご家族の不安をきいたことで悩んだ時には、アドバイスを求めてくれてもいます。ただ担当だけでなく、みんな資格をもったスタッフが療育園にはいますので、私もご家族の皆さんの不安や悩みを聞かせていただければと思います。

昨年度より二期生が研修を受講し、審査を受けることとなりました。来年度からは認定看護師が2名となる予定です。二人で協力しながら、利用者の皆さんにより良い生活を提供できるように、またご家族の皆さんにも寄り添えるように努力をしていきたいと思っています。



# 成人・還暦を祝う会



今年も成人と還暦になられる方を祝う、成人・還暦を祝う会が行われました。今回は成人になられる方一名と還暦になられる方一名でした。二人とも正装で参加し、拍手で会場に迎えられた際にはどこか誇らしげな表情さえみられました。壇上にあがり、経歴の紹介やお祝いの言葉などをもらい、記念品や花束まで手渡された際には、入場してきた時とは違い、少し緊張している表情が印象的でした。その後は二人の「思い出のアルバム」という名のスライドショーをみんなでみましたが、スライドがかわる度に「若い！」や「可愛い！」などの声も聞こえてきました。普段みれない貴重な写真をみる事ができました。

この行事を経験し、二人がますます楽しい生活を送っていただけますように。



# 新・節分会!



「節分会、いつものあれね。こわい鬼が出て(笑)」。企画する高校生のメンバーにもなんだか余裕の表情が見られました。「今年は〇〇してみない?」、メンバーの一人が意見を出しました。

「そんなの出来るわけないじゃん、だいたいどこでやるの?」。尻込みする男子が多い中、女子はやる気満々でした。節分会当日、場所はいつもの講堂です。でも今年はこちらに大きな舞台を用意しました。

V6出演のテレビ番組でおなじみの「未成年の主張」をやることになったのです。

「私のもっと楽しい生活を送りたい!」と叫ぶ女子もいれば、「私は看護師さんにあやまりたいことがあります…」と恥ずかしそうに告白する子も。ここまで来たら男子も黙っていません。「給食のメニューに言いたいことがある!」会場のみんなも「なあに〜」で応えます。他にも「大学受験を頑張るぞ!」「Tボール大会、今年も優勝だ!」力強い宣言が次々と出てきました。最初はどうなることかと心配したこの企画も、大成功だったのではないでしょう



か。この熱気の中、いつも以上に鬼もハッスル?の豆まきを行って今年の節分会は終了しました。これから先、「未成年の主張」が恒例になりそうな予感(笑)。

# 楽しかった保育



保護者 中藤友栄

煌生は2歳の時、急性脳症で一夜にして寝たきりになりました。ついさつきまで元気に遊んで、ごはんも食べていた子が、自分で呼吸することもやめて眠り込んでしまっなんて、とても信じられないことでした。

「もう、長くは生きられないんだろうな」と、長いあいだ思っていました。何度も命の危機を乗り越え、たくましく生き延びて、この春小学生になります！

食いしん坊で、甘え上手で、けっこうワガママな性格は、寝たきりになっても変わらないようで、1日1回の保育の時間が大好きでした。保育のない休日に、おもちゃのピアノで保育の始まりの音楽を弾いてあげると、心拍がググーっと上がったこともあります。

冷たいスライムを手にかけてもらうと、手首をくるんと返したりして、その反応に先生と二人で大喜びした思い出もあります。春にはイチゴを、雪が降ったら雪も触らせてもらいました。5歳の時は、立派な七五三の式もして頂きました。

た。プロの写真屋さんに来てくださって、スタジオで撮ったような立派な家族写真は、ポスターにして我が家のリビングに飾っています。

声も出さず、まぶたも動かない子に、絵本を読んで、やさしく語りかけ、楽しい歌やふれあい遊びをしてくださった先生に、心から感謝を申し上げます。寝たきりになる前の、元気な様子を思い出しては、後ろ向きな涙を流していた日々もありました。本なら幼稚園でお遊戯会や運動会も楽しんでいたはずなのに、と思ったこともあります。でも、保育の時間のほんの小さな指や肩の動きに、みなさんと一緒に大喜びできることは、奇跡なのだと思わせてもらいました。

子どもには、多くを望まず、生きていくだけでいい、と思っています。これから始まる小学校生活に、親子でワクワクドキドキしています。きつとマイペースな煌生は、「お母さん、期待しすぎ〜」と、あきれているでしょうね。

# 卒業生紹介

▼高等部卒業▼ [若草園]

岡本亜美さん



4月から新しい所で笑顔いっぱい頑張りたいです。新しい所でもたくさん友達を作りたいと思います。若草園のみんなありがとうございます!!

津麥翔梧くん



あつという間の三年間でした。その中でも一番思い出深いのは「Tポール大会優勝」です。4月から就職しますが、自分の能力を高めながら、社会人の一人として頑張ります!!

西江倫子さん



高校生活も終わり若草園でたくさんの人と出会い、思い出ができました。4月からは新しい場所に行き不安と期待で胸がいっぱいです。これから楽しみを見つけて新しい場所でも頑張りたいです。

道下 諒くん



園生活ではたくさん思い出ができました。仕事に慣れるのは大変かもしれませんが、頑張りたいと思います。たまには、みんなに会いに行きます!!みんなも頑張ってください。

▼中学部卒業▼  
[若草園]

・森田綾乃さん  
・占部太子くん

▼小学部卒業▼  
[若草園]

・山本洋一くん  
・田中勝也くん

▼保育修了▼  
[若草園]

・荒谷龍ノ典くん  
・棟山悠雅くん  
・金川大介くん

[若草療育園]  
・中藤煌生くん

卒業  
おめでとう



1月14日 たこあげ(保育)



12月6日 もちつき(療育園)



1月31日 節分会(療育園)



12月20日 クリスマス会(若草園)

行事だより

ボランティア紹介

若草園・若草療育園の行事への参加... 個別支援や入園児者への関わり、学習指導や縫い物などに多くのボランティアの方々に継続して来て下さり、日々の生活に潤いと刺激をいただき本当にありがとうございます。これからも宜しくお願い致します。

行事(もちつき)

- 飯田晴香 幾田奉文 井手本勅子 江口裕梨 川原和子 川崎正江 川野浩子 川崎緒子 川崎照美 菊地重子 河野恵美 小早川衣子 坂井博美 佐々木麻里 高木琴音 土居智悠 土肥孝子 中居美悠 長廻弘美 畑井綾香 橋中朱美 前田侑里 三平松鶴 宮谷亜季 帆乃夏 澤久美

- 講師 吉本より子(創作活動) 縫い物 貫名照美 菊地重子 橋中朱美

- 学習支援 江口裕梨 酒井美佳

- 作成 大丸啓子 川野浩子 林七海

- 個別支援 菊池志乃 寺井はるひ

- 余暇支援 原ゆかり 射場健士朗

- 環境整備 河内昌義

- 理容 輪の会のみなさん

- 読み聞かせ 堀川美幸

(12月~2月 敬称略)

編集後記

広報誌の担当をして2年が経とうとしています。利用者の皆さんの生活の一場面を取り上げたり保護者の方に想いを書いていただいたり。出来事や考えを文字にする難しさに直面しながらも、「わかくさ」を読む皆さんが少しでもその情景を思い浮かべられるように試行錯誤するのが楽しめるようになってきたような気がします。

これからも利用者の皆さんの色々な表情をお伝えできるように頑張ります。